



# 大谷地域の魅力 再発見！

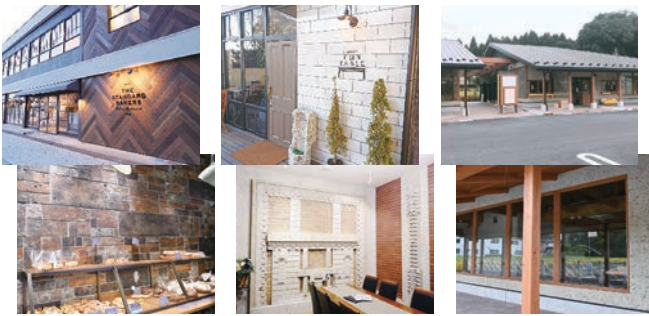
大谷地域には、大谷石を利用したお店や地下に貯留する冷熱エネルギーを利用して栽培するいちごなど、大谷石産業から生まれたさまざまな魅力があります。

なかなか遠出はできませんが、改めて市内の魅力を見つめてみるのはいかがでしょうか。大谷地域の魅力を再発見しませんか。

☎大谷振興室 ☎(632)2455

## 大谷石を内外装材に使用した 素敵なお店

素敵な空間となっているお店で、地域の食材などを使用した食事やデザートをお楽しみいただけます。



▲ザ  
スタンダード  
ベーカリーズ  
BAKERS

▲OHYA FUN  
テーブル  
TABLE

▲ベルテラシェ大谷  
(9月16日オープン  
予定)

## 大谷石の採取場跡地に貯留している 「冷熱エネルギー」を活用した特産物

### ▼大谷夏いちご

夏秋期に栽培される国産いちごとして希少価値が高く、沖縄県のリゾートホテルなどでも使用されています。ぜひ味わってみてください。



市内の洋菓子店や全国のホテルにも出荷していて、スイーツの食材として「夏秋頃に国産いちごを使用する」ことを可能にしたのも大谷地域だからこそだと思います。

### ▼地下蔵熟成ワイン

年間を通して湿度90%以上、夏の気温が16℃ほどの、ワインの熟成に適した「天然の巨大地下蔵」で保存・熟成されたワインです。



＼お得に大谷石を取り入れませんか／

ID 1006779

## 大谷石を利用した建築に補助します

大谷石を店舗・事務所(10㎡以上)や居宅(5㎡以上)の内外装材として使用した際に、材料費・工事費の一部を補助します。

詳しくは、市☎をご覧ください。大谷振興室☎(632)2455へ。

詳しくは  
こちら



## 大谷石を窯業に活用した「大谷石陶芸®」

大谷地域で活動する作家さんが、大谷石を含む釉薬を塗布して焼成した陶磁器などを制作しています。

※「大谷石陶芸®」は7月に商標登録されました。



## ライド アラウンド in 宇都宮 with **Blitzen**

☎観光交流課 ☎(632)2437

10月頃から2カ月間、スマートフォンと自転車を活用したアクティビティを行う予定です。

自転車に乗って、森林公園やろまんちっく村・大谷地域など、市北西部の地域を周遊するとポイントが貯まり、集めたポイントに応じてプレゼントがもらえます。

### ▼遊び方

- ①周遊エリアを選んでスポットを巡る。
- ②チェックインしてポイントゲット。  
スポットの中には追加得点が狙えるミッションがあるかも。
- ③集めたポイントと特典を交換。



※今後、回遊性を向上させるため、グリーンスローモビリティなどを活用した観光交通社会実験を実施する予定です。アクティビティや社会実験については、決まり次第、市☎などでお知らせします。



## ■「大谷石文化」とは

「大谷石文化」とは、大谷石の産出する宇都宮において、大谷石をほる(掘る・彫る)ことと建物、塀、鳥居など大谷石をさまざまな形に変えて使いこなし、長きにわたり暮らしの中に根付いてきた、宇都宮の独特の文化のことで、平成30年5月に宇都宮のまちに息づく「大谷石文化」のストーリーが日本遺産に認定となりました。

## ■5つのストーリーで紐解く「大谷石文化」



### ストーリー1 石工が掘りだした巨大地下迷宮

かつて大谷には採掘場が約250カ所あったといわれ、今でもその跡地があります。その多くは地下にあり、坑道を進むと天井と壁・柱で構成された巨大な空間が現れます。その天井高は約30m、壁面には採掘の痕跡が残っています。

機械が導入されるまで、採掘は手作業で行われ、石材1本を切り出すために、石工は約4,000回もツルハシを振るったといわれています。



▲カネイリヤマ採石場跡地(大谷資料館)



### ストーリー2 大谷石産業の歴史

大谷石が本格的に建材として採掘されるのは江戸時代頃から。明治以降、採掘産業として本格化し、人車軌道や鉄道などの輸送手段の発達や採掘の機械化により出荷量は飛躍的に増加しました。大谷石は宇都宮のみならず東京や横浜に大量に出荷され、近代化する日本の都市づくりの礎となりました。



▲カネホン採石場(高橋佑知商店)



### ストーリー3 掘り出した石で築いた都市文化

城下町・門前町として発展した宇都宮の市街地では、江戸時代以降、都市づくりに大谷石を使い続けてきました。二荒山神社の石垣をはじめ、教会や寺、豪商の屋敷、民家の塀まで、用途・身分・宗教を問わず大谷石が使われました。

耐火性に優れ調湿・消臭効果を備える大谷石は、食品醸造に適し、みそや酒、しょうゆなどの商家の蔵に用いられました。



▲旧篠原家住宅



### ストーリー4 農村の暮らしに溶け込む大谷石

農村部には、田園と大谷石が一体となった素朴な景観が広がっています。30棟以上の石蔵が集まる集落では、掘り跡が生々しい石壁や大谷石の石屋根も目に入ります。大谷石は、一般的に神社の鳥居、野仏などに使われていますが、宇都宮の農村部では、田んぼの土留め、農業用ポンプ小屋にも使われています。



▲芦沼集落



### ストーリー5 おう凹が拡がり、凸が生み出される宇都宮

宇都宮では、大谷石を地産地消の資源として変幻自在に使いこなす文化を育んできました。近年、採掘場跡地は、探検の舞台となり、大谷石建造物は、カフェやギャラリーなどへの転用が進んでいます。現在も大谷石採掘は続き、地下迷宮は拡がり続けています。

地下の巨大な凹が大きくなればなるほど、石のまち宇都宮の魅力が凸出していく。これからも宇都宮の人々は、大谷石と共に暮らし続けていきます。



▲ダイニング蔵おしゃらく

## 大谷石文化が息づくまち宇都宮

日本遺産「大谷石文化」を詳しく紹介している他、市内に点在する「38の構成文化財」や、地質や歴史・民俗など多方面から学ぶ「大谷石文化学」連載記事などをご覧ください。

▼日本遺産「大谷石文化」HP  
<https://oya-official.jp/bunka/>



## 大谷地域の魅力発信中！

大谷石産業や観光、大谷夏いちご、地域で活躍する人など、「大谷地域の魅力」をストーリーや写真、映像などで紹介しています。

▼大谷地域ポータルサイト  
 「Oya, Stone City」  
<https://oya-official.jp/>

